

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 有限会社ハマダコーポレーション.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401680-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家のような家庭的な雰囲気を壊さず、手作りの料理と温泉でゆったりと生活している。訪問マッサージなど利用者の為になるものであれば積極的に取り入れている。ボランティアでは、音楽療法士さんが隔週で訪問してくれ、普段から外出の機会を多く持ち、計画的・突発的に出かけて、季節を味わうことができる。また、毎月のおしらせでご家族に様子を逐一報告しており、その他アルバムを作って面会時にご家族と一緒に見たり、普段入居者同士で見ている。スタッフは研修会などに積極的に参加したり、各種委員会を設置することでケアの維持向上に力をいれ、キャリアアップにも積極的に介護福祉士や介護支援専門員の合格者も出ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館山が見える景色の良い丘陵部の住宅街に位置し、周辺には小学校や中学校、高等学校、消防署などが点在し、大型の公園も近く、利便性の高い環境下に立地している。建物は木造2階建、住宅地に馴染んだ普通の戸建住居で、周囲に溶け込むように建てられている。事業所の玄関や廊下等のいたるところに長火鉢や使い込んだ古民具の筆筒、古風な食器棚等が配置され、居間は大きな窓と高い天井で陽当りも良く開放的で、全体的に日本の家庭の原風景を思わせる温かい雰囲気に包まれて、2ユニット18人の高齢者が生活している。当事業所の優秀な点は、職場環境の良さが挙げられる。職員は利用者のためになる、ことで一致した意識を共有し、問題意識を常に持って介護に臨み、先輩から後輩に、経験者から新人へと一人ひとり介護は違う、介護の個性を伝えている。職員全員での個別化した介護への取り組みは、介護職への定着化を増やし、安定した介護の提供へと結実している。ボランティアの定期的な音楽療法や大勢の子供たちで賑わう七夕行事等々、利用者の喜ぶ顔が絶えない「グループホームおもひで・懐」の今後に、大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (56-62) regarding staff support, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人の人格を尊重し、その人らしさを支えていく」という基本理念と「家庭的な雰囲気の中で一人一人の「生活を大切に、穏やかに楽しい暮らしを提供します」というケア理念を掲げ、実践につなげられるように毎朝申し送り前に唱和している。	人格の尊重という基本理念と、穏やかに楽しい生活のケア理念を事務所内に掲げ、利用者や家族、職員等の関係者に提示している。また日々のケアに活かせるよう、毎日申し送りで唱和し、現場での実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、クリーン作戦などの町内会行事に参加したり、事業所で夏祭りを開催したり、函館独自の七夕などで地域近隣の方々と交流している。	開設後14年が経過し、事業所の存在も地域で認識されており、地域とは資源回収やキャラバンメイトの講座、事業所でのお祭り参加、また七夕での児童交流と、多岐にわたり地元との付き合いは維持促進されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に所属し、クリーン作戦などの町内会行事に参加したり、事業所で夏祭りを開催したり、函館独自の七夕などで地域近隣の方々と交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度必ず開催している運営推進会議では、サービスの向上を目的とした活発な意見交換を行い、そでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は行政、家族、地域代表等々の参加で2ヶ月毎に開催され、行事報告や消防訓練、ターミナルケア等の他に、身体拘束への継続的な勉強会も行われるなど、サービスの質向上に活かされている。	運営推進会議の特性上、事業所内での出来事は全面的に公開・開示するのが必然と思われ、事故やヒヤリハットについても議題として報告・論議され、事業所の理解促進となるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保健福祉部指導監査課や地域包括支援センターと共に話し合いを持ったり、包括支援センター主催の勉強会に事例提供検討し、ホームの実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて協力関係を築いている。	行政の窓口とは、運営推進会議や実施指導、制度の運用についても随時指導を受けており、情報交換も含め、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会をミーティングや会議などの際に資料を配布したり、毎日の申し送りや日頃事あるごとに転倒などのリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を話合っている。	身体拘束禁止委員会を設置し、指針の基で3ヶ月毎に現状の介護内容の点検や事例検証等々で開催している。議事内容は、都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会をミーティングや会議などの際に、管理者を中心としてケアの状況により指導・全員で検討したり、市主催の研修会に参加するなどして虐待防止に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修をすでに修了しており、また実際に対象者がおり、任意後見人制度の申請の手助けをして、利用に至った実例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に余裕のある時間で行い、サービス内容など詳しく説明し、その都度疑問点などないか確認しており、十分説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に受付窓口、責任者を電話番号とともに、また公的な第三者機関機関の相談窓口も明示し、相談・苦情を気軽に言ってもらえるように日頃か話し、玄関にはご意見箱を設置するなど意見が反映できるようにしている。	玄関には意見箱を設置し、いつでも意見や苦情が言えるように努め、利用者の日々の生活についても、お便りを毎月発行し、個人欄を設けて一人ひとりの日常を発信して、より多くの情報を伝えながら家族意見の聴取に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス以外でも普段から運営に関しての意見や提案を話しやすい雰囲気を作り、管理者が意見をまとめて運営者に定期的に話す機会を設けている。	定期的な会議や申し送り時に提案や意見を聞き取り、職員との関係を維持している。また社長との面談も随時設定し、職員の意見やアイデア、工夫について取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は職員の離職などで利用者が受けるダメージを認識し、福利厚生面についても極力、職員の希望を取り入れるよう努力している。スタッフが揃えば、有給休暇を積極的に消化できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は、職員の段階に応じ、積極的に研修会等の受講や、国家試験受験の為の応援に努め、働きながら介護福祉士合格者や、介護支援専門員合格者もでている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、勉強会、ブロック別会議などで交流があり、この事によりサービスの質の向上に大きく影響がある。また、職員の参加希望も多い状況となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予約段階から、管理者が訪問して事前に、ご本人様とよく話し合う機会を設けて信頼関係を築くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居予約段階から、管理者が定期的に電話や訪問して事前に、ご家族とよく話し合う機会を設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と運営者、ケアマネージャーが連携し、できる限り運営者もご本人・家族に事前に訪問し状況確認しました、他サービス事業所や医療機関に問い合わせながら、最適なサービスが受けられるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを大切に、生活の中で活かしていけるよう一緒に買い物や家事をしたり、一緒に食事を摂ったり共に過ごし、会話を大切に、家族のような存在になれるよう良い関係づくりに努めている。一方的なケアにならないよう、相手の立場になって想いをくみ取っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時などに、ご本の様子や状況を伝え、時にはご本人を安心させてもらえるように声かけてもらうなどして、職員と連携しながらご本人を支えている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の知人の面会も受け入れたり、なじみの理美容室や商店、病院などへ行くなどの支援も行っている。	買い物先や床屋、友人の訪問とお出かけ、地域のお祭りへの参加等、色々な場面を用意して、馴染みの関係継続に留意している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士が過ごせる配慮をしたり、良い関係が作れるように配慮している。トラブル発生時は早急に原因の把握、仲裁に入るなどして、お互いが不快な思いを残さないように対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気などで退去された方の病院に必要時にでかけ、ご家族や相談員に今後の方向性などを一緒に話し合ったり、電話での相談など、出来る限りのフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの希望に沿うために、ご家族や関係者から情報収集し、事業所理念に基づき、できるだけ本人本位になるように支援している。	日々寄り添いながら生活し、その中で感じた本人の思いや意向、好き嫌い等を大切に共有し、介護側の都合を極力排しながら、本人本位のケアに徹している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に生活歴・ライフヒストリー等を聞き取りして、その後も定期的に連絡を取り合い、アセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の人格を尊重し、本人ができる能力を伸ばすように働きかけている、自分でできる所は自分でやっていただき、できない所や補助が必要な所のみ援助し、現状の能力を総合的に判断している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を採り入れ、職員は日常の利用者の状態を申し送りとし、業務日誌に記録、それをケアマネジャーと話し合いのうえ、介護計画を作成している。	介護計画は本人と家族の意向を踏まえ、スタッフからの日常生活を聞き取りながら作成している。短期目標の達成に向けての進捗度の把握は、介護日誌と業務日誌で把握し、病変等が生じた場合は即応して変更を検討し、現実に対応した介護計画になるよう、努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に日常の暮らしの様子や、本人の言葉、排泄状況などケアプランに基づく記録には青で線を引き、介護計画に実践や見直しに活かしている。特筆すべき事項などは連絡ノートなどで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合上、利用者の希望する用件、かかりつけ医の診察、冠婚葬祭、美容院、自宅への送迎等々が困難な場合、事業所がかわって柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などで文化・教育機関などに行く際は必ず事前に連絡している。また夏祭りなどの行事では学生ボランティアを頼んだりしている。入居者の意向や必要性に応じて協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医への受診支援の他、医療連携している主治医の隔週での受診も行っている。また、利用者の変化に気付いた場合は24時間体制で電話相談による支援も行っている。	本人と家族の意向を尊重し、受診関係を築いている。看取り介護を希望される場合は、往診可能な協力医の必要性を説明し、同意を得ている。医療職の管理者を中心に、かかりつけ医、協力医、訪問看護と、一人ひとりに応じた医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の看護師が隔週（医師訪問とは別の週）に訪問して、状態観察や医療相談にのってもらっている。また職員にも、1名准看護師の資格を持っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院する際は、必ず職員付き添い、情報提供や今後の方針などを医師や他職員と相談する。また定期的に医療機関と連絡を取り合うばかりでなく、お見舞いに行き実際の様子を見たり、今後の方向性を相談員と話し合うなど積極的に相談・関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へは、終末期の事柄について重度化・看取りに関する指針を示し同意書を取っている。また医療連携している主治医とは24時間体制で連絡相談ができる体制を整えている。	契約時に書面にて看取りの指針を説明し、希望があれば最後まで支援する旨同意を得ている。重度化・看取りの指針では、医療と介護の違いも克明に説明し、利用者にとって適切な対応になるよう、チームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、緊急対応のマニュアルを見えやすい場所に掲示しており、全スタッフが周知している。消防主催の普通救急講習を順番に受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2～3回避難訓練を実施している、また消防の安全協会に入会し、研修会に参加するなどしている。道南GH協会Bブロック内では、災害時に協力できるような体制ができています。	年に2～3回、避難訓練を地域住民の協力を得ながら実施している。近辺のGHとは相互協力体制を交わしており、また冬季の災害を考慮して発電機や石油ストーブも数台用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに関する内容はインシヤルを使用し排泄も1, 2, 3と暗号化することや、トイレ前に暖簾を置くことや誇りを損ねない言葉かけや対応をしている。	今の介護は本人本位であったか、と常に問う姿勢でケアに臨んでおり、言葉かけや動作、表情についても注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の能力に応じて、常に複数の選択肢を用意したり選べるように支援している。また待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望に添い、ドライブ、花見、外食等年間行事計画はあるが、それ以外での突発的に出かけることなど、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望や生活背景から、服装やおしゃれを支援する。本人、訴えられない方はご家族に確認し自分の好む理美容店に行けるように支援している。身体状況で行けない方もホームに業者を呼んで理美容している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日その時にある食材を利用者とスタッフが話し合いながらメニューを決める。一人一人量の加減や苦手なものを除去するなど配慮している。利用者が自ら台所に立ち、簡単な調理をしたり、配膳や後片付けなども一緒に行う。	献立はその日の利用者の希望と食材とを勘案して決めており、対面式の台所はどの場面でもお手伝いが可能な造りであり、利用者と職員が一体となって、楽しい食卓となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量をチェックを記録し、さらに管理者が再度チェック。特に目立った減量が見られる場合、医師から高栄養流動食の指示がもらい対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を、スタッフ全員が理解し、歯磨き・義歯洗浄を促し、困難な方は口腔ケアティッシュを使用するなど状況に合わせて支援するように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックや排便チェックがされており、排泄の自立に向けて支援している。又失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて誘導している。	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導し排泄を促している。その他、利用者個人の排泄サインも職員で共有し、本人が負担にならない様、自然な形で排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材やの提供や適度な運動、マッサージ等状態に応じて取り組んだり、個々に最適な最低量の下剤を使用するなどし便秘予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好まない方にもゆっくり入浴して頂けるよう、好みの入浴剤を選んでもらったり、体調にも配慮し体調に合わせた時間帯で入浴を楽しんでもらっている。	お風呂はお湯を毎日浴槽に満たし、いつでもだれでも入れるように準備している。日々3人程度の入浴者であり、ゆっくりと語りながら楽しいお風呂になるよう、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない場合に添い寝や暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりしたり、個々の睡眠パターンに合わせて就寝時間を配慮する。また疲労や緊張の度合いに応じてこまめに休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは処方された薬の内容が記載された用紙を確認し、入居者が服用している薬の種類や副作用を把握し、指示通り服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご飯の盛り付けや食器すすぎ拭き、洗濯たたみなど個々の状態に合わせて役割り分担をしている、隔週火曜日には音楽療法士のボランティアが、来訪したり、ドライブに出かけるなど退屈しないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、ドライブなど、個人に合わせた支援をしている。また、季節ごとに春は花見、夏は牧場、秋は紅葉、冬はクリスマスツリーなどの季節ドライブにみならず、普段でもドライブに出かけるなど、出来るだけ戸外に出られるよう支援している。	恒例となった季節のドライブや、買い物外出、外食等々、閉じこもらない介護を実践しており、特に夏のパレード観戦は他の観客と馴染みとなる程であり、また日々の散歩も天候の許す限り実施し、ご近所さんとの会話を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持ってもらっている。困難な方でも職員が付き添い買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに十分配慮しながら、電話や手紙等の通信を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや日光が入るように配慮したり、随時温度湿度を確認し気持ち良く過ごせるようにしている。また季節が感じられる飾り物を季節ごとに変え季節感を味わえるように心かけている。古民具の箆笥や火鉢なども邪魔にならない場所にさりげなく置き。	居間兼食堂は大きな窓からの暖かな日差しが豊富であり、明るく居心地の良いみんなの居場所となっている。また景色も最高で、函館のシンボル、函館山が一望でき、花火や夜景も楽しみとなっている。玄関や廊下等々には、古民具である箆笥や火鉢が置かれ、愛着の湧く配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間からすぐに出れるウッドデッキに木のベンチを設置したり、気兼ねなく休むソファや椅子を様々な場所に配置し、入居者同士の話の場や気兼ねなく休める場所として利用してもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇が置いてあったり、懐かしい家族の写真を飾ったり、安心できる居室になるように配慮している。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気を感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレ、浴槽には手すりが設置されている。浴槽内には滑り止めマットを引き、浴槽移乗のための補助具なども設置し安全に努めている。台所はオープンキッチンになっているので、自然に台所に来て、作業ができる。		